

1 自己評価及び外部評価結果

事業所番号	0673000469		
法人名	社会福祉法人 ふじの里		
事業所名	グループホーム ふじの花荘		
所在地	山形県鶴岡市藤の花一丁目18-1		
自己評価作成日	平成 23年 8月 16日	開設年月日	平成 14 年 3月 1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県小川町二丁目3—31		
訪問調査日	平成 23年 9月 9日	評価結果決定日	平成 23年 9月 28日

(ユニット名 —)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは、月山や鳥海山が見渡せる旧藤島町の中心部に位置し、緑豊かで閑静な住宅街に隣接した福祉エリア内にある。職員は、入居者一人一人の思いや意向を大切にしており、入居者との日々の関わりの中で気づきを多く持てるように支援している。また、今まで培ってきた生活や家族との関係、地域との関わりが入居後も途絶える事のないように、関係者との情報交換を密に行うように心掛けている。職員の働き掛けによりご家族の運営推進会議への参加が増えてきており、当事業所運営に対して、入居者はもちろん、ご家族や行政、地域の方々から関心を持って頂き率直な意見や感想をいただくことが出来るようになった。その貴重な意見等を真摯に受け止め、職員間で検討しサービスの質の維持・向上に結び付けている。今後も入居者一人一人の心身の変化に留意し、生き生きとした生活ができるように支援していきたいと考えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然と、緑豊かな環境に恵まれ、近くでは元気な園児達の声が飛び交い、利用者にとって時には姿を目で追う微笑ましい光景が展開されています。人と人との関わりの中で「気づき」をより多く持てるように職員間で共有し合い、質の向上を目指してやまない事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価（結果）」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「快適な環境で生活リハビリを継続し、趣味や地域行事への参加をしながら楽しく過ごしたい」を理念として掲げ、年度初めの運営会議での確認、事務室内の壁面に提示して質の確保に努めている。	出来る事や参加してみたい事等を全て生活リハビリと称し、継続した関わりがある。入職者に「理念」を理解してもらう為に、法人全体と、配属場所でオリエンテーションを数ヶ月行ないながら、利用者に関わってもらい共有ができています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議での町内会長や民生委員の参加により情報交換を行なっている。また、ボランティアの受け入れも実施しており、利用者と日常的に交流している。	2年前から、昼食作りの調理ボランティアを週に1回受けている。今回、敬老会へ3名の参加あり、女性はきれいに身仕度、化粧し、男性は酒をたしなみ満足した様子がうかがえる。これからも利用者のやってみたい事を軸に、地域との繋がりを深めていく事を考えている。。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者は認知症ケアについての法人内部研修会での講師役を務めている。運営推進会議の構成員やご家族からの認知症についての質問などにも随時対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の会議を行い、グループホームでの生活の様子やその他の事業について報告を行い、構成員からの意見や要望を取り入れている。改善点に関しては、職員全体で会議の中で検討し取組みに繋げている。	当初はこの運営推進会議を消化しなければという焦りがあったが、地域、家族等の参加で多方面にわたって意見が聞かれ、情報の場となっている。マンネリ化にならない為にその都度テーマを設け、年2回は利用者も参加し、手作り菓子でもてなしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議以外でも市の担当者より利用者、職員と一緒に食事する機会を設けて、より密に情報交換を行い協力関係を築けるように計画している。	介護相談員は月1回1名の方が来訪し、運営推進会議のメンバーでもある。市担当者との連携を一步踏み込んだ形で、今回から利用者・職員と共に昼食会に参加してもらい、良い関係作りに取り組むことになっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	在宅部門研修会において、身体拘束についての勉強会で学んだ事を日々の業務の中で職員個人で1年を通じて「介護業務マニュアル」のチェック表を定期的に記入し、自らが行っているケアが身体拘束に当てはまらないかを確認しながら行っている。	身体拘束に関して家族等に入居時説明があり、状況に応じた話し合いが随時もたれている。帰宅願望の強い方には、利用者に合わせた対応となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	在宅部門研修会の中で、虐待についての勉強会で学んだ事を日々の業務の中や職員個人で1年を通して「介護業務マニュアル」のチェック表を定期的に記入し、自らが行っているケアが虐待に当てはまらないかを確認しながら行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度は、実際に利用されている方がいない為か全スタッフが理解しているとはいえない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、家族の希望を考慮しながら、分かりやすい説明を心掛け入退所時の不安軽減に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	担当の職員が一人一人の利用者と相談や傾聴できる時間を設けて、随時検討を行っている。また、ご意見、ご要望カードの窓口を設け、随時受け付けている。介護相談員の受入れを行っている。	意見や要望カードの担当窓口には管理者がなっている。事業所では面会時に家族から話される内容の中に、利用者がエアコンが苦手とあればその都度対応しながら、サービスに繋いでいく場面が見られる。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎年全職員対象に、自己申告書内で、法人に対する要望・提案等を出してもらい運営に反映させるようにしている。また、日常の業務の中や毎月の会議等で職員の意見を取り入れ、入居者・職員の為のより良い運営を検討している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の仕事への取組みを常に観察し、毎月の会議での発言の機会や内部・外部研修への参加、専門誌の定期購読、資格取得への働きかけを行っている。また、チャレンジ目標管理シートを作成し、個々の仕事への意欲・向上心の把握を行なっている。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の会議での提案や在宅部門研修会への参加、外部の研修(自主研修も含む)への参加を行っている。また、参加者は復命報告し、スタッフ全員で情報を共有し、質の向上が図れるようにしている。個人に合わせた個人研修計画も作成し実施している。	法人内研修、外部研修へ参加があり、年間計画を立てこれらを基に個人研修計画を実施している。職員各自の意識向上を図る為、管理者と副主任が関わり、個人を対象とした外部研修(接遇研修等)への積極的な働きかけがある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	近隣の施設との連絡調整を行いながら、研修会や連絡会への参加を行い、得た情報を当施設の運営について参考にしてサービスの向上に努めている。	交換研修を受け入れており、こちらから出掛けて行く事の必要性も認識している。交換研修における一番の目的は、コミュニケーションの取り方や情報交換にある為、今後は事業所から課題を持参し、参加の方向を検討している。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所申し込み時や事前面接時にご本人の意志や思いを聞き、ご家族からの意見なども参考にしながら受け止める努力をしている。また、入居後には、ご本人との信頼関係を築けるように担当職員を中心に日々の関わりの中でご本人の意見や思いを聞いて、職員全体で把握していくよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談を受けた時、事前面接、契約時にこれまでのご家族の思いや体験等を聞きながら、今後、より良い関係を持って共に不安な事、心配な事、希望などをお聞きしながら共に支え合う仲間としての関係を築いていけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状態に応じて、グループホームでの共同生活が可能か、何が必要か探りながら、ご本人とご家族の状況を踏まえ、必要に応じて他事業所の紹介やサービスについての情報を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	これまでの生活歴や経験を活かして共同生活の中でも一人一人が日常生活の中に希望や役割ができるように食事の手伝いや食器拭き、テーブル拭き、洗濯物を干したりたたんだり、掃除をしたり職員と一緒に施設周辺を散歩に行ったり、共に過ごし学び合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後はご家族との連絡を密に行い、共に連携・支え合って支援していくように努めている。ご本人とご家族の関係によっては、面会の回数も少ない方がおり、通院はなるべくご家族にお願いするなど、事業所と家族との役割分担を行っている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の制限を設けず、可能な限り、ご家族や馴染みの方々との交流が図れるようにしている。ご本人が入所前に行っていた理美容室を利用したり、友人やご家族との外出で馴染みの店で食事をしてもらったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の性格や行動、他者との関係性を観察しながら、状況に合わせて日々の活動や行事への参加時配慮し対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内の他事業所より、退所後の情報を得るなど把握している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話やアンケートから希望・要望を聞き取り、状況に応じて対応している。訴えの内容によってはご家族との相談や毎月の会議の中で検討している。	職員と1対1になった時の会話では、やはり「家に帰りたい」という本音が聞かれる。日々の関わりで、利用者の表情や行動に同じ目線から向き合うことを心がけ、職員一人ひとりが、自分のカラーを出しながら様々に変えてみての支援ができています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人が利用されてきた事業所やご本人、ご家族等から生活歴や嗜好を聞き取り、これまでの暮らし方や習慣などを参考に、日常生活の中でお互いに信頼関係を行けるように生活歴・サービス利用の経過把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で一人一人の過ごし方を総合的に把握している。個人記録や業務日誌を活用しながら一人一人のできる事、できない事、やりたい事等生活リズムの把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族の要望を聞き、個人担当職員とスタッフ全員から意見を出してもらいながら定期的に見直しを行い、ご本人の意向を重視した介護計画を作成している。	利用者と家族の思いが異なる時は利用者を中心に傾聴している。介護計画書は理解できる方に同意を求め、家族からも確認をもらっている。毎日の流れの中で何より利用者の表情が生き活きとしていて、自分のやりたい事ができ、それが計画に反映されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録の他に日々の気づきやご本人・ご家族からの希望を職員連絡ノートに記入し、職員全体で共有できるようにしている。また、内容をケアに活かせるように会議でも検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化（小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載） 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の希望を考慮しながら、ご家族と一緒に馴染みの理美容室への外出や施設への出張を行って頂いている。毎月、介護相談員の受け入れも行っており、訪問時は話をしたりしながら楽しそうに過ごされている。年2回は消防署の協力により、避難訓練の実施、救急蘇生法の講習会への利用者参加も行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関として内科と歯科の2医院を確保はしているが、ご本人・ご家族の希望する医療機関を受診して頂いている。通院時には情報提供表を作成し、事業所からの情報発信を行っている。また、法人内の看護師の応援体制も確保している。	利用者・家族等が希望するかかりつけ医を受診している。家族の絆を大切に、遠方の方以外は通院を家族がしている。受診時は、情報提供表を持参し、結果や日頃の生活状況等の情報を共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所としての看護師配置はないが、異常や気づきがあれば随時法人内の看護師へ相談を行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の主治医、病棟の看護師長や医療相談員の方々と情報交換を行い、早期の退院にむけて状況把握に努めており、職員もできる限り面会に行き、状況把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にご本人やご家族から重度化した場合や終末期に対する意向を確認している。入居者の安心と安全が確保できるように他事業所や医療機関と連携を図りながら支援している。また、事業所内では終末期介護についての研修も計画し実施している。	入居時、利用者と家族等の意向を確認し、状況の変化に応じて話し合いを行なっている。重度化や終末期の受け入れ体制を目標に研修を実施し、気持ちの理解や関わり方について職員全員で取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の防災計画に沿って救急蘇生法講習会への参加を行い、繰り返し緊急時の対応について訓練している。また、緊急時マニュアルを作成し職員に対して理解と周知を図り、いつでも使える場所に置き対応出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災計画に沿って避難訓練を行なっている。避難訓練や消火訓練の際は、消防署職員からの指導を受けている。	法人全体の避難訓練や夜間を想定した訓練を実施している。震災の時は、落ち着きのある利用者の様子に職員が勇気付けられた面もある。災害時の備蓄強化を改めて図っている。	新興住宅街にあり、まだ町内会は老人会婦人会等ができていない為、事業所の関わりは難しい状況だが、今後地域と一体化した災害訓練が行なわれる様期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせた声掛けや接し方を心掛けて、入居者の尊厳と権利を守りながら、プライバシー保護に努めている。また、事業所内では毎年1回プライバシー保護についての研修と介護業務基本マニュアル活用し、自らのケアを確認出来るようにしている。	「介護業務基本マニュアル」で職員各々が出来ているか出来ていないかではなく、どう工夫しているかを自己チェックし、サービスの振り返りとプライバシーの確保に取り組んでいる。「名前で呼ぶ」「指示的に話さない」「馴染みの方言で」など声がけにも気を付け、職員の意識向上に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々に合わせた声掛けや接し方を心掛けている。訴えや思いを傾聴し、落ち着いて話せる雰囲気作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人一人の意向を大切に支援ができるように、職員間で情報の共有を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人より希望・要望を聞き取りながら、身だしなみやおしゃれができるように支援している。ご家族と一緒になじみの理美容室へ行ったり、買物をしたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の嗜好の調査を行ったり、職員と一緒に食事の準備、後片づけを個人の能力やその時の状況を見ながら行い、残存機能を活用しながら支援するように心掛けている。また、利用者と一緒に嗜好品の買物に行くようにしている。	毎月、孟宗汁やだだちゃ豆等の季節食を献立に取り入れ、利用者の得意料理のしそ巻きや笹巻きを一緒に作りながら食事を楽しんでいる。悪天候で楽しみにしていた外食ができなくなった時などは、利用者が自ら選んだメニューでの出前も楽しみの一つになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の様子や身体状態から個人にあった食事量を提供している。また、食事摂取量が少ない場合は、職員間で引継ぎを行い、食事チェック表も使用しながら様子観察に努め、間食等で摂取量を調整するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがいや歯磨きを促がし、口腔ケアの徹底を図っている。なるべく自力で行って頂くように支援し、最後に職員が確認するようにしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、他者とトイレ使用が重ならないように見守り、ゆっくり排泄ができるように誘導のタイミングを見ながら失禁が軽減できるように支援している。	プライバシーに配慮した声がけを行ない、回りに気づかれない様にさり気なくを大切に支援している。一人ひとりの力に合わせ、本人の意向に沿った夜間の排泄を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表の活用により、個々の状況を把握し、予防の為に繊維質の多い献立や水分量の調整、適度な運動ができるように働きかけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人一人の希望をアンケートにより把握し、可能な限り、個々に合わせた入浴（時間や回数）ができるように支援している。	アンケートは満足度の確認にも繋がり、体の状態を確認しながら2日に1回のペースで入浴している。利用者の希望に沿って、時間や回数など適時に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の日常の過ごし方や生活習慣を把握し、個々の生活パターンに合わせた休息、睡眠を取って頂けるよう、日中、適度な運動や外出などを行い、夜間を中心にゆっくりと休んで頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方箋を確認しながら、職員全体で数量や効果を把握している。誤薬等ないように内服まで数回のチェックと日常の様子観察を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、これまでの生活歴や経験を活かしてできることは積極的に行ってもらっている。個人の能力や希望を取り入れて、それぞれに役割（食事の手伝い、後片づけ、裁縫、畑仕事など）を持って頂くように支援している。また、日常的にレクリエーションや行事、散歩やドライブ等に出掛け、気分転換が図れるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の様子を見ながら、施設周辺の公園に散歩に行ったり、畑で野菜を収穫したり、なるべく室内にこもる事がないように支援している。散歩の付き添いボランティアの受け入れも行っており、個々の希望に合わせて随時対応している。	利用者の中には近くの公園に万歩計をつけて出掛け、本人の励みにしている。週4日の買い出しや、ゴミ捨て、畑作り等、個人の能力に合わせた外出支援をしている。季節折々、少し遠出してドライブに出掛けたり、家族との外食等利用者の意向を一番に考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭については、原則、個人管理としている。個人で財布を持っている方もおり、買物の際に支払いを行って頂く場合がある。管理が難しい方については、ご家族と連携しながら紛失やトラブルの防止に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	随時、ご本人の希望を確認し、ご家族の協力を得ながら個別に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備を常に意識して整理整頓・一日数回の清掃により、清潔保持に努めている。排泄後の臭いに対するの消臭スプレーをしたり、廊下や居間へ車椅子や必要な物以外を置かないようにし、転倒等の事故防止に努めている。また、室内装飾は、幼稚になり過ぎないように季節感があるような装飾や花を飾ったりし、和やかな雰囲気空間を作っている。	共用空間は広く、畳の部分もあり、ゆったりと過ごせるようになっている。ウッドデッキスペースには、利用者が育てている鉢などが並び目を楽しませていると共に、水やりなどの日課も大事にしている。事務室はガラス張りで、厨房なども全て対面式になっており、双方に安心感を与えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間と食堂を椅子で仕切り、数名でゆっくりとテレビを見たり、団欒できるスペースを作っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、特に新品を購入する必要はないことをご本人、ご家族に説明し、馴染みの物を使って頂けるように支援している。居室については、個々が過ごしやすいように自由に使用して頂いている。	居室内は、各々使い易く配慮され、寝具等も今まで使っていた物を持参し安心してもらっている。入りのカーテンは利用者の手作りで、自分の部屋としての思いが伝わってくる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日々の生活の中で、できる事を活かして介助・支援で補いながら自立した生活に近づけるよう努めている。		